おいしさを笑顔に

KIRIN

キリングループ
2011年第1四半期決算

2011年5月6日

キリンホールディングス株式会社

目次

おいしさを笑顔に
KIRIN

１． 第1四半期決算

２． 全社取り組み

３． 各事業概況

４． 震災関連情報

1. 第1四半期決算

おいしさを笑顔に
KIRIN

■売上高・営業利益・経常利益が過去最高
医薬・バイオケミカル事業が大幅増収増益、全社でのコスト削減も寄与

（億円）

		2011年 第1四半期	前年差	前年増減 （%）
	国内酒類	1,693	▲150	▲8.2
	国内飲料	651	▲93	▲12.6
	海外酒類・飲料	1,176	543	85.8
	医薬・バイオケミカル	1,126	144	14.7
	その他	240	17	8.0
売上高		4,889	461	10.4
	のれん等償却前営業利益	436	113	35.0
	（のれん等償却額）	（107）	（21）	—
営業利益		329	91	38.3
	持分法による投資損益	▲4	▲19	—
経常利益		293	87	42.3
	特別損益	▲31	▲14	—
税金等調整前四半期純利益		262	72	38.1
	法人税等	216	128	146.0
	少数株主利益	67	26	65.4
四半期純利益		▲21	▲82	—

□震災の影響により、国内酒類・国内飲料事業において販売量が減少する一方、医薬・バイオケミカル事業の増収増益に加え、豪州飲料事業の前年決算期変更による影響から、売上高・営業利益・経常利益が大幅に増加

□営業利益では、売上総利益の増加に加え、クロス・カンパニー・チーム主導によるコスト削減効果、販促費抑制等も寄与

□豪州飲料事業における前年決算期変更の影響により、前年実績がない同事業の第1四半期が増分寄与

（売上高 594 億円、 営業利益 6 億円）

2．1． 全社取り組み（1）

おいしさを笑顔に KIRIN

■収益性・効率性向上をさらに追求

クロス・カンパニー・チーム コストシナジー

（億円）

	2011年目標	第1四半期	進捗率
生産・物流	47	16	34%
調達	40	10	25%
IT他	7	2	28%
合計	94	28	30%

その他全社取り組み

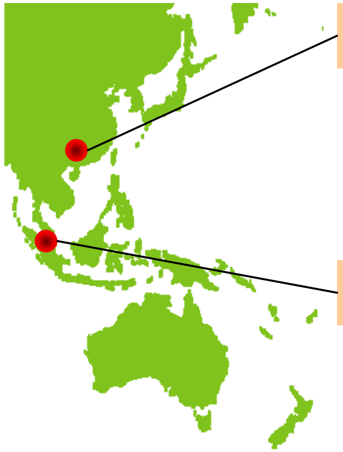
■コア事業への更なる活動集中に向け、2010年に引き続き事業ポートフォリオの選択と集中を推進

- □協和発酵ケミカルの全株式を売却 （3月）
- □メルシャン水産飼料事業を譲渡 （4月）
- □豪州のモルト製造子会社 キリンオーストラリアの株式を譲渡 （4月）
- □メルシャン医薬・化学品事業を譲渡 （7月予定）

■資産流動化は年間目標700億円に対し610億円の実績 （※協和発酵ケミカル株式売却分を含む）

2. 2.　全社取り組み（2）

■飲料事業・医薬事業を中心に海外展開を加速

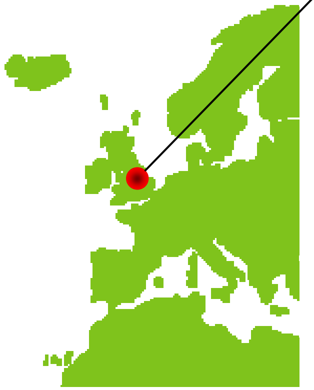


中国飲料事業

- ■ 華潤創業有限公司と中国で清涼飲料事業を行う合弁会社の設立について合意。6月末のクロージングに向け取組中

東南アジア飲料事業

- ■ フレイザー・アンド・ニーヴ社、第2四半期より持分法適用により損益取り込み
- ■ ベトナム飲料会社インターフード社の経営権を取得、同国における清涼飲料事業を今後さらに強化
- ■ キリンホールディングス・シンガポール及びインターフード社に対し、キリンのスタッフ約10名を派遣。現地に密着した新体制構築を加速



医薬事業

■英国ProStrakan社の買収

- □スキーム・オブ・アレンジメント（※）の効力発生により、4月に協和発酵キリンの子会社化が完了
- □米国・欧州における自社販売体制の確立を目指す

※ 英国法上の買収手続き。ProStrakan社取締役会の同意に基づき、競争法当局、同社の株主総会及び裁判所の承認を得ることにより買収が成立する、友好的な買収手法

３．１．　各事業概況　（1）国内各社

おいしさを笑顔に
KIRIN

キリンビール	□「キリン 濃い味〈糖質０〉」「まっこい梅酒」など、新しいカテゴリー創出につながる価値創造の商品開発を推進 □新会社「キリンビールマーケティング株式会社」の概要を発表 キリンビールの営業機能を担う構成会社として2012年１月に設立予定
メルシャン	□国産ワインの１－３月販売数量が対前年104%を達成。主力商品を中心に家庭用が堅調
キリンビバレッジ	□基盤ブランドを軸とした販売・マーケティング活動を引続き強化。主力の紅茶カテゴリの１－３月販売数は対前年101％
協和発酵キリン	□主力医薬品ネスプ・レグパラの好調、花粉の飛散増加による抗アレルギー剤の需要増等により、医薬事業が増収増益

3. 2.　各事業概況　（2）ライオンネイサン ナショナルフーズ

おいしさを笑顔に
KIRIN

- ■ブランド力強化を重視した事業経営を一層推進、さらなる収益性と効率性の向上に注力
- ■一方、金利上昇、光熱費の上昇などが景気の不透明感や消費者の節約志向につながり、豪州・ニュージーランドの個人消費にプレッシャーを与えている。加えて、原材料価格の高騰や冷夏の影響もあり、厳しい市場環境は継続
- ■2010年12月末以降、豪州クイーンズランド（QLD）州の洪水やNZ地震が発生し、消費に影響を与えた。当社一部拠点も被災したものの、被災影響は最小限に食い止められる見込み

酒類事業

- □豪州：プレミアム化により約4%の単価上昇も、冷夏等の影響によるボリューム減などにより売上高約11%減少
- □集中投資により、XXXXブランドをはじめとする主力ブランド群の商品ミックス内構成比アップ
- □ニュージーランド：豪州同様に厳しい市場環境も、コアブランドへの集中により単価は上昇。ペルノリカール社から取得したワインブランドの貢献を含め売上高9%増

飲料事業

NATIONAL FOODS

- □長期的な成長実現に向け、コアブランドや中核拠点、人材に集中投資を継続
- □注力カテゴリーであるフレーバードミルクDare Iced Coffeeが好調、ローカルブランドからナショナルブランドへと成長
- □ナショナルフーズとデアリーファーマーズの統合は順調。チーズ工場の抜本的再編案を発表
- □ホワイトミルク市場では、プライベートブランドの成長による利益へのプレッシャーが強まっている。ナショナルフーズのホワイトミルクのボリュームは11%減少

※記載数値は全て現地マネジメントベース

4．1．　東日本大震災関連情報　（1）被災状況

おいしさを笑顔に
KIRIN

■キリンビール2工場等などが被害を受けたが、急速に復旧が進み、仙台工場を除き、４月末現在ほぼ平常どおりの稼動を回復

■震災損失は、判明分を第1四半期決算に計上、全体把握に向けて今後精査を進める

主な被災設備の現状

- キリンビール仙台工場
  現在も稼動停止中であるが、製造設備に壊滅的な被害はないと認識。今秋の再稼動を目指す
- キリンビール取手工場
  設備損壊により一時稼動を停止したが、ほぼ復旧。5月上旬までに缶パッケージングラインを増強し、さらに機能強化を図る
- その他、各社物流センター等が一部被災したものの、概ね復旧済みであり、現在はほぼ平常どおり稼動

損益影響（第1四半期）

- 東日本大震災に伴う損失51億円を特別損失として計上
- 主な内訳
  - 製品、商品、半製品、原材料等棚卸資産の廃棄損、評価損　21億円
  - 広告の中止　20億円

（各社特別損失内訳）　（億円）

会社	金額
キリンビール	42
キリンビバレッジ	5
協和発酵キリン	1
その他	2
合計	51

4．2.　東日本大震災関連情報　（2）復旧状況と今後の見通し

■４月末時点で、各サプライチェーンにおける自社の状況が改善。震災以前と同等の商品供給体制確保へ

■今後は市場に対する変動要素を注視

各サプライチェーンの状況

- □各工場の増産等により、震災発生前と同等の供給体制を確保
- □東北地方への物流ルートを確保
- □被災地における全営業拠点について営業を再開

各社今後の見通し

上段 ： 現状
下段 ： 今後の市場変動要因

（各社の詳細はP10－12参照）

キリンビール	・各工場の増産により震災前の供給量を確保。資材供給も順調に回復
	・節電による外食産業への影響、消費マインド、経済・家計状況
メルシャン	・資材供給は不足するが製造設備に問題は無し
	・業務用市場と家庭用デイリーワインの動向
キリンビバレッジ	・資材供給は不足するが製造設備に問題は無し
	・高い水準で推移している水の需要、資材供給不足、夏場の電力不足
協和発酵キリン（医薬）	・製造委託先工場が被災したが自社工場での製造により製品供給体制を確保
	・3月、震災後に発生した医療用医薬品の出荷急増については、4月以降は反動を予想

被災地への支援活動

キリングループでは、義援金や飲料・食品の進呈により、被災地への支援を実施。今後もグループをあげた支援取り組みを継続

おいしさを笑顔に

KIRIN

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.

（参考資料） 震災関連情報（キリンビール）

おいしさを笑顔に
KIRIN

（1）設備等の被災状況

被災状況	現状および復旧に向けた見通し
□ 仙台工場（製造能力19万KL）：ビール貯蔵タンク4基が倒壊したほか、津波によるパッケージング設備・倉庫等の浸水や商品流出が発生	製造設備に壊滅的な被害はないと認識。今秋の再稼動を目指し、復旧スケジュールを策定中
□ 取手工場（製造能力40万KL）：ビール貯蔵タンクの傾き・変形等。一部建物の損壊もあったが、大きな被害はない	既存の壜・缶・樽列は全面的に製造再開 5月上旬までに缶パッケージングラインを増強し、缶の製造能力を震災前の2倍に強化へ
□ 首都圏・取手の自動倉庫が停止	4月中旬より稼動再開

（2）今後のサプライチェーンへの影響

	主な変動要因	現状および今後の取り組み等
調達	・缶資材供給の安定化時期	・製缶メーカー被災による缶資材不足の影響で、缶製品の製造量が大きく制約を受けたが、4月末にはほぼ解消。最盛期に向け、更なる調達安定化を図っていく
製造	・夏季の電力需給対策	・横浜工場（製造能力50万KL）は、自家発電により、電力需給対策要請時も通常レベルで製造可能
物流	・燃料供給の今後の動向 ・物流拠点、ルートの確保	・燃料については、4月末時点でほぼ供給が安定 ・関東エリアの出荷は震災前のレベルに回復し、東北エリアの出荷も本格化 ・5月中旬には仙台に物流センターを開設
販売	・支社の活動	・東北エリアでも通常の営業活動を再開

（3）市場見通し

- □ 節電による外食需要への影響、消費マインドの回復ペース、経済活動・家計の動向が変動要因
- □ 東日本の消費は上記変動要因の影響を大きく受けるが、西日本における消費は基本的に堅調
- □ ビール類市場は、年初見通し（▲2～3%）に対し、▲3～5%の下振れが見込まれる

（参考資料） 震災関連情報（キリンビバレッジ）

おいしさを笑顔に KIRIN

（1） 設備等の被災状況

- 湘南工場（神奈川）、舞鶴工場（京都）、製造子会社のキリンチルドビバレッジ（埼玉）、「アルカリイオンの水」を製造するキリンディスティラリー富士御殿場蒸溜所（静岡）ともに損傷なし

（2） 今後のサプライチェーンへの影響

	主な変動要因	現状および今後の取り組み等
調達	・資材（キャップ）の供給安定化時期	・清涼飲料業界として、ペットボトル用樹脂キャップの供給量不足に対応して、「白無地キャップに統一」することを4月中旬に決定 ・キリンビバレッジにおいても、4月下旬以降の製造により、順次白無地キャップの導入を開始
製造	・夏季の電力需給対策	・計画停電がある場合、可能な時間帯で効率的な製造を行う
物流	・燃料供給の今後の動向 ・物流拠点・ルートの確保	・燃料については、4月末時点で、ほぼ供給が安定 ・東北エリアの物流センターは、3月下旬から4月初旬にかけて稼働を開始
販売	・営業拠点の稼働状況 ・新商品・キャンペーンの状況 ・夏場の節電	・岩手・宮城・福島の3県での営業活動は限定的であるが、他の東北エリアは、通常の営業活動を開始 ・発売・実施を延期した新商品・キャンペーンは、4月下旬以降、順次再開 ・自販機の節電対応 （24時間消灯、7月～9月の日中13－16時の冷却運転停止に加え、同期間10時～21時の間の25%以上の電力削減を4月15日に発表）

（3） 市場見通し

- 飲料市場は対前年96～98%を見込む（年初見通し：対前年99%）
- 高い水準で推移している水の需要、資材供給不足、夏場の電力不足が変動要因

（参考資料） 震災関連情報（メルシャン、協和発酵キリン）

おいしさを笑顔に KIRIN

メルシャン

（1）設備等の被災状況

- 藤沢センター（神奈川県）の自動倉庫が一時稼動が停止したが、４月末時点で復旧をほぼ完了（倉庫機能に影響なし）

（2）今後のサプライチェーンへの影響

調達	・包装資材の安定供給まで、当面は一部商品で通常と異なるものを使用 ・一部商品（フランジアペット）発売延期
販売	・被災地の営業拠点については、北日本支社（仙台市・盛岡市）は通常の勤務体制

（3）市場見通し

- 業務用市場（特に北日本および首都圏）において引き続き需要減が予想されるが、家庭用の需要増も想定されることから、総需要の見通しは流動的ではあるが影響は限定的

協和発酵キリングループ

（1）設備等の被災状況

- 協和発酵ケミカル千葉工場が操業を停止したが、安全が確認されたため3月21日より操業再開
- 協和発酵キリンの各工場については大きな被害は無し

（2）今後のサプライチェーンへの影響

製造	・医薬品の製造委託工場が被災。再開に時間がかかることから、自社工場での製造を開始
販売	・被災地の営業拠点は、東北支店（仙台市）、福島営業所（郡山市）、水戸営業所（水戸市）が物的被害を受けたが、営業を再開

（3）市場見通し

- ４月以降、３月に発生した震災後の医療用医薬品の出荷急増の反動が予想される